

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	株式会社だんらん
(ユニット名)	グループホームだんらん
所在地 (県・市町村名)	新潟県上越市頸城区北方125番地8
記入者名 (管理者)	村松ふじえ
記入日	平成 年 月 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったり のんびり そしてげんきに」とかかかって認知症の高齢者のペースに合った生活を送っていただけるように努力している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を入居者と職員の手作りで作り掲げている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会や運営推進会議等で話をし、今取り組んでいる事について報告している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的にお付き合いをしている。散歩等に出かけると挨拶をかわし、一緒に腰をおろして話をしたり、野菜をいただいたりして帰る事が多い。また、外に出ていると立ち寄っていかれる方もおられる。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	だんらん行事には地域の方々が大勢参加され、複数の老人会より交流させてほしいと申し入れがある。保育園児とも今後交流を予定している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の老人会の交流に役立っている。行事やイベント、防災訓練にも声がけをしている。(行事には毎回50人以上の参加あり)</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価研修会の報告や実施にあたって話し合いをしている。また、取り組みについての必要性を十分に理解している。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議には利用者家族、職員全員に案内を出し、意見交換をし、職員会議等で検討している。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域のケア会議に参加し、意見交換をしている。疑問点があれば市町村に連絡し、相談したり、アドバイスをいただいている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>支援している。外部から講師を招き、役員、地域の方々、職員で勉強会を実施した。その結果、入居者に成年後見人制度を利用していただくことになった。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>努めている。拘束や虐待防止の学習会を行い、知識や意欲を高める努力をしている。また、運営推進会議や家族会に報告を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>行っている。日頃より利用者様への状態説明をさせていただき、理解していただく努力をしている。また、相談にのり、その後の施設等も連絡を取ったりしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>反映させている。利用者や家族からいただいた意見等については職員会議で共有し、改善策や職員の考えをまとめて報告している。また、家族会や運営推進会議でも報告している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>報告している。暮らしぶりや健康状態については面会時に必ず報告し、必要に応じて電話等の連絡をしている。職員の異動については家族会やおたよりで報告している。異動した職員も面会時等に個別で挨拶をしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>反映させている。家族会はとても積極的に意見をまとめて報告して下さる。それに対する回答や改善策も文章で報告している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>反映させている。自由に意見を言える雰囲気作りをしている。前職で様々な職についていた人が集まっているので、色々な発想があってよいと思う。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>努めている。余裕を持った勤務表を組んでいるので、必要に応じて調整をしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>配慮している。グループホームと有料老人ホームの交流会等を日常的に行い、常に顔なじみの関係作りをしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。内部研修を月1回行い、職員の意見等を参考にしている。また、外部研修を受けた場合は、報告会を行い、必要に応じて資料の提供をする。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みをしている。研修の受け入れや、ボランティアの受け入れを積極的に行っている。また、他施設にも研修に出ている。報告書の提出も行い、情報交換をしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	取り組みをしている。職員へのアンケートや面談を行い、把握している。また、辞めていく職員がいない事も一つの評価だと考えている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	十分に把握している。研修等の支援もしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	努力をしている。見学や説明を繰り返し行い、不安やニーズの把握に努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	努力をしている。見学、説明、ホームページ等で当施設をよく知ってもらった上で入居にあたっての不安やニーズを把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用にいたるまでにケアマネが十分に話を聞き、アドバイス等を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と一緒に見学され、特に施設周辺を気に入られる事が多い。また、利用者の日常の写真を見て自分の入居後の生活を想像できると言って気に入られ入居されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	築いている。その人のありのままを受け入れ、人生の先輩として学びながら一緒に生活している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	訪問時に必ず利用者の状態を報告し、家族の希望や思いを聞いたり、お互いに情報の共有をし、家族と同じ思いで支援をしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	支援している。家族の面会も多く、現状を報告した上でフォローできる部分はフォローし、入居者と家族がゆっくりと過ごせるように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。入居後、以前お付き合いしていた人達の面会もあり、ゆっくりと過ごしていただいている。散歩やドライブなども入居者の意見を聞いた上で実施している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	努めている。出来るだけ良い人間関係が保てるように仲間を通じてお茶をしたり、散歩を楽しんでいただいたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	大切にしている。利用をやめて、自宅へ戻られた人が以前にいらしたが、その後当施設の共用型デイサービスの利用申し込みをされ家族はとて安心されていた。しかし、結果的には自宅で死亡された為、利用にはいたらなかった。その他にもその後の様子についてご家族様から報告を受けたり、相談を受けた事もあった。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との話し合い、家族からの情報収集等。職員からのアンケート(私が～さんだったら)等で本人の思い、意向の把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の事前訪問や家族からの情報収集等。前施設からの情報を積極的に収集している。また、本人からはゆっくり時間をかけて教えていただいている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	努めている。本人の望む過ごし方をしていただいている。本人の有する力を発揮していただき、ダスキンがけ、手すり拭き、洗濯干し、たたみ、調理の手伝い等をしていただいている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族との話し合いや、アンケート等に基づき、職員の話し合いで作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時計画の見直しを行っている。状態の安定している入居者の方は期間に応じ見直しをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	努力している。気づきや工夫はカンファレンスシートを使用し、介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型デイサービスや短期入所等、グループホームの多機能性を生かした柔軟な支援をしている。共用型デイサービスは特に利用者のニーズに応じ、時間延長等も可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方々のボランティアの受け入れや文化協会の人と協力しながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣の方々の見守りボランティアや訪問理容サービスを使用している。布団乾燥等のサービスについても必要に応じて支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働している。運営推進会議に出席していただき、困難事例についての相談等を行なっている。また、成年後見人制度の利用に結びついた事例もある。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。協力医療機関の医師の理解があり、24時間連絡が可能で、必要に応じて往診もしていただいている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	支援している。必要に応じて電話相談もしている。受診については連絡等も行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	支援している。看護師が1名常勤している。(施設長)同敷地内に自宅があるので、24時間柔軟に対応している。何日も看護師が不在にする場合は代行の看護師を頼んでいる。ドクターにもその旨を連絡をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	努めている。情報交換や退院に向けての受け入れ態勢等を早期に話し合い、準備している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	共有している。主治医と家族が十分に話し合える様に調整をしたり、主治医と家族とのパイプ役になる等も行い、終末期を静かに受け入れられるように支援している。今まで3名の方の看取りを行なった。ご家族様からとても感謝されている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	取り組んでいる。終末期を迎えるにあたり、家族や主治医に話し合い、準備を進めている。また、家族も悔いを残さないように利用者と家族の良い関係作りも支援している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	努めている。病院へ入院された方々から電話での相談等があり、相談にのったり、アドバイス等も行ってきた。自宅に戻られた方には主治医より、今後の事についての情報提供や、利用者家族のニーズ等を伝えてきた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>勉強会を行い、努力はしているが十分ではないと思われる。またお互いに注意をしあえる雰囲気作りを心がけている。お互いの注意を素直に受け止められるように努力をしている。</p>	<p>今後も努力していく。職員の意識を上げていくことが大事。(ビックリして大きな声を出してしまう事がよくある。)</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>支援している。職員が話し合い提案をするが、最終的には本人に意思の決定をしてもらっている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>支援している。整髪は鏡の前で本人が整えられるように見守っている。着替えも本人の好む服やズボンを着ていただけるように支援している。行動や外出の時は持ち物や、洋服などのおしゃれを楽しんでおられる。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人や家族の希望により決めてもらっている。パーマ、染髪等。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と一緒に野菜を切ったり、盛り付けをしたりしている。職員も同じテーブルで同じ食事を一緒に食べている。</p>	<p>今後も努力していく。時には一緒に作っている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物やおやつについては努力している。聞いても何が食べたいという意見もあまりない。ここで食べる物が一番おいしいとよく言われる。食事については行事食や昔ながらの食べ物と一緒に作っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄状況を調査し、タイミングを見て介助している。また、尿意を感じたら落ち着きがなくなる。動き出す等のサインを見逃さないようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	着脱や洗身については、本人が出来るだけ自分のペースで出来るように支援している。曜日、時間帯については希望があれば可能な限り応じている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、天気のいい日には外に出て日常的に散歩などをし、その後十分な休息がとれるように支援している。一人一人の表情や行動からその日の状態の把握をし、その時その時の状態に合わせて休息が十分にとれるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人にあった力を発揮できるようにダスキンがけや外掃除、野菜きり、洗濯干し、たたみ等をしていただき、本人達もとても満足そうである。また、みんなで感謝の気持ちをのべることでやさしくなる。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーや市へ行き、自分の好む物を買ひ、自分の財布から支払をしてもらう事も本人達の楽しみとなっている。今後も無理しない方向で支援していきたい。		もう少し機会を増やされるようにしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	春から秋まで日常的に外に出てドライブや散歩を楽しんでいただいている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食や買い物、温泉へ家族の協力を得て支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠方で暮らしている方からは時々希望され対応するが、当施設は家族や親族の面会、訪問が多いので電話や手紙のやり取りの回数は少ない。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者の子供、孫、近所の方々の面会が沢山あり、とても訪問しやすい雰囲気だとよく言われる。また、居心地も良く、居室で一緒にお茶を飲んだり、写真を眺めたりとゆっくりと過ごされていく。食事を希望される事もあり、食事を一緒に施設で食べられる方もおられる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会をしたり、事例を出して話し合ったりしている。また、迷う事があったらいつでも誰でも聞ける職場の雰囲気作りをしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	去年までは入浴時間の手薄になる時間帯に鍵をかけさせていただいていたが、今は夜間のみ施錠している。特に問題はない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、利用者の把握はできるようになっている。夜間は頻繁に巡回し、安全確認をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じ家族と相談し、注意しながら自己管理をしていただいている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	学習会や事例報告をしながら職員一人一人の意識を高めている。毎月職員会議や学習会で報告し、情報の共有や工夫、解決策を講じている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が十分であるとはいえないが、学習会等で知識や技術を習得する努力をしている。看護師が24時間柔軟に対応し、その都度、指導もしている。		今後も学習会を継続し、知識・技術が向上するように努力していく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域へ協力の依頼をしている。当施設の避難訓練にご近所の方々も参加し、協力をしていただいている。また、当施設の避難訓練にもっと沢山の地域の方々にも参加していただき、消火訓練などを行う事を検討している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	話し合っている。お互いに情報を共有し、考えられるリスクや予測される事について常に話し合いをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早期発見に努めている。異常に感じた時は主治医、家族へ早急に連絡し、職員も情報の共有に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。必要に応じて医師や薬剤師に連絡を取り、柔軟に対応できている。薬剤師との関係も良好で、ちょっとした事でも相談にのってもらっている。また、薬剤師から医師へ、医師から薬剤師へと連絡が密に行なわれている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	取り組んでいる。排便の状態を記録し、必要に応じて食べ物や運動で調整している。またドクター処方の内服薬の管理もきちんと出来ている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	支援している。全介助、一部介助、仕上げ、見守り等、その人の状態に合わせて支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。栄養士を招いて学習会をしたり、アドバイスを受け、その人に合った食事量や食事形態を提供している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防を行っている。マニュアルを作成し、周知徹底を働きかけている。また、新しい情報等を職員間で共有している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や食材の管理に努めている。調理の前後、調理器具の洗浄。調理者や共働きする利用者の手指洗浄の徹底。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	自由に近所の人達が寄られる。玄関には近所の方々からいただいた野菜が常に置かれていて一般家庭のような環境である。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の野菜や山菜を一緒に調理したりし、常に料理の匂いがホームを漂っている。押し寿司、おはぎ、かき餅などを作って季節感を感じられるようにしている。日常的に外に出て季節感を感じられるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外に出たり、ベランダに出たりして、思い思いに過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの椅子やテーブル等が自然の形で置かれ、建物の外見も中も施設的な雰囲気はあまり感じられない。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計、湿度計でこまめに管理している。また、毎日外に出たり、布団を干したりして気になる匂いもこもってはいない。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化等に考慮し、ベッドの高さや柵等を工夫している。建物も職員が作った物なので利便性を十分に考慮してある。状況に応じ、手すりをつけたり、ベッド、椅子、テーブルの高さの調整が容易にできる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	状況の変化に対して混乱や失敗が生じた場合は、その都度職員で話し合いを行い、それぞれに合わせた工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日常的に外に出てベンチに腰掛けたり、お茶のみ、散歩を楽しんでいる。車イスの人でも必ず天気の良い日には1日1回以上外に出て風にあたり、日光浴を楽しまれている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設周辺の環境がとてもよく、春から秋まで日常的に外で過ごしている。

医療連携体制がとてもよくとれていて、24時間医師への連絡も看護師も柔軟に対応できている。

地域との交流が盛んで、施設の行事には沢山の老人会の皆さん達が参加されている。また、立ち寄ってお茶を飲んでいかれる方もいる。